



ジオだより



三陸ジオパーク推進協議会

米田浜津波堆積物 岩手県天然記念物指定へ

「米田浜津波堆積物」は岩手県野田村の十府ヶ浦海岸の南端部・米田浜（まいたはま）の海食崖に所在しています。過去の津波によって海から運ばれた砂や礫が18の層をなし、約7,000年前の縄文時代に発生した津波から2011年の東日本大震災津波まで、複数の津波の痕跡が確認できる地層として露出しています。

露頭の保存状態も良好で、東日本の太平洋沖で発生したすべての津波の痕跡が現在確認されているのは、全国でもこの野田村の「米田浜津波堆積物」が唯一の場所となっており、津波災害の痕跡を明確に知ることができることから、繰り返されてきた三陸地域の津波災害の歴史を視覚的に伝え、地域の防災意識を高めるための教材としての活用も期待されています。

自然が残した津波の記録

2011年 東日本大震災
1896年 明治三陸大津波
1611年 慶長三陸地震津波
869年 貞観地震津波



海岸からほど近い場所にある

地質学的に極めて貴重と評価され、令和7年9月に岩手県文化財保護審議会は「米田浜津波堆積物」を県の天然記念物（地質鉱物）に指定するよう答申したところであり、正式に指定されれば津波関連の史料としては県内初の天然記念物となります。

野田村総合センターには「はぎ取り標本」も保管されており、これまでも津波・防災学習に役立てられています。

* こちらもご覧ください
<https://sanriku-geo.com/2015/10/6558/>
 (いわてのジオのモノがたり34)

* 津波堆積物とは

津波によって海底あるいは海岸の堆積物が削り取られ、それが津波とともに運ばれて別の場所に堆積した砂泥や石のことを「津波堆積物」と呼びます。

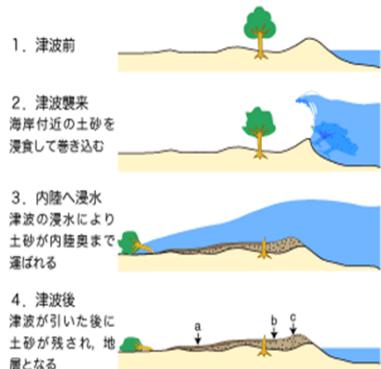
湿地や湖沼など、普段は静穏な環境下で少しずつ堆積している地層（泥炭層や泥層）の中に、砂の層として保存されることが多いことがわかっています。

津波堆積物のたまたまたった年代を推定することで、過去の津波の発生時期や繰り返し間隔を解明することができます。

さらに平野などで広範囲に津波堆積物の分布を探ることで、過去の津波の浸水域や規模を把握することができます。

ただし、津波の浸水域については、津波堆積物の分布と一致しないことが知られており、その評価を慎重に行う必要があります。

津波堆積物の形成プロセス



認定ガイド講座の「文化各論」での講義にて 「災害文化」

岩手大学地域防災研究センターの坂口奈央准教授による講義では、いくつかの事例紹介から一般的な生活文化との違いについてお話しいただき、多方面にわたる「災害文化」の一部を学びました。

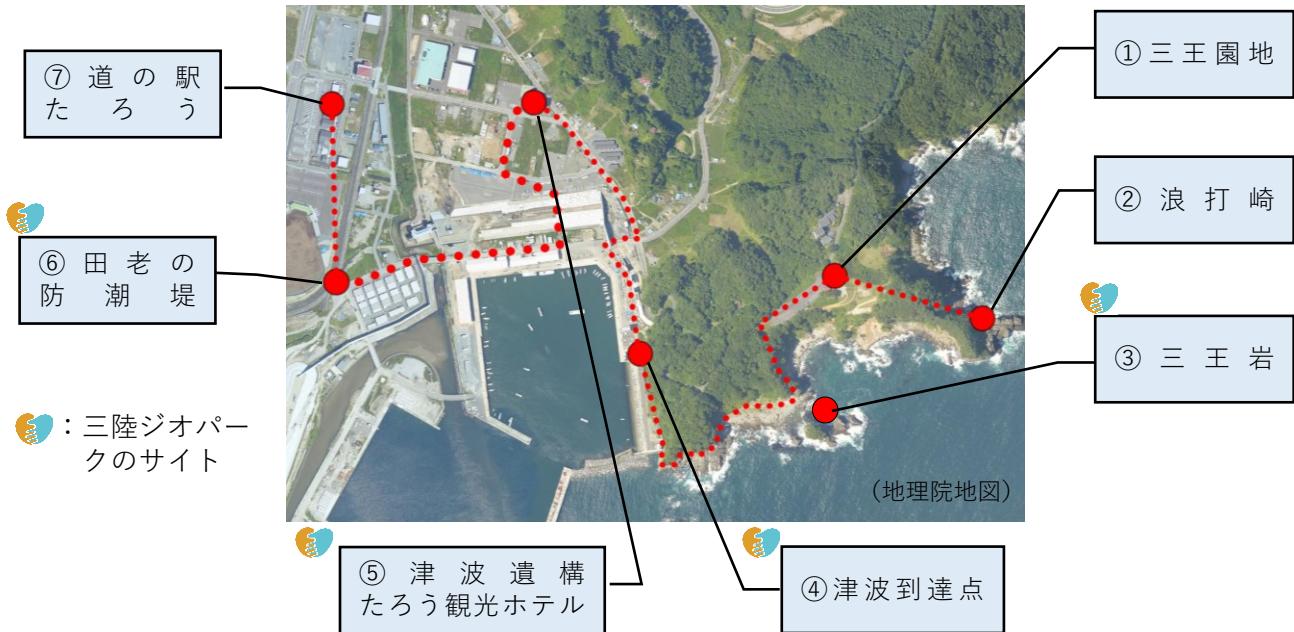
災害に直面することで起くる“人々”の間で生まれる現象には、在来知や価値観があること。避難所で生活や復興に向けての主体的な活動などで地域コミュニティが強化され、住民により学習され地域防災減災への行動につながっていること。三陸という津波常襲地域における、人間の寿命の何倍もの年月をかけて蓄積され、創意工夫がなされてきた生活の知恵や経験に学ぼうとする動きが活発化しているということなどが挙げられました。

出典：産総研地質調査総合センターウェブサイト
https://gbank.gsj.jp/tsunami_deposit_db/tsunami/deposit.html

～みちのく潮風トレイルルート等のご紹介～

宮古市田老地区

みちのく潮風トレイルは、青森県から岩手県、宮城県、福島県までの1,000kmを超えるロングトレイルです。トレイルルートには、三陸ジオパークのサイトが点在しています。美しい風景と風土を楽しむ道であるとともに、震災をいつまでも語り継ぐための記憶の道との位置づけもされています。今回は、宮古市田老地区における周辺スポットを含めたルートをご紹介します。



まず、①三王園地を出発し遊歩道を通って②浪打崎に向かいます。アップダウンがあり少々大変な道ですが、美しい景色が目の前に広がります。景色を楽しみながら休憩した後、来た道を戻り、次は③三王岩へ下ります。三王岩の岩肌には、1億年以上も前の砂岩とれき岩が造る地層の縞模様が確認できます。その後は、これまでに三陸地域が受けた津波による被害を物語る④津波到達点と⑤津波遺構たろう観光ホテル、そして⑥田老の防潮堤を訪れ、最後は⑦道の駅たろうまで歩きます。道の駅構内には産直や食堂があり、地元の味覚を堪能することができます。

歩行時間は約1時間で、トレイル初心者の方でも挑戦しやすいコースとなっていますので、ぜひ歩いてみてください。

<参考>宮古市災害資料伝承館

最終地点の⑦道の駅たろうから徒歩約5分の場所に、令和7年6月に開館した「宮古市災害資料伝承館」があります。『史実を伝え、災害の記録や記憶を風化されることなく次世代に伝える』を展示テーマとし、東日本大震災津波のほか、宮古市の過去の自然災害の歴史を当時の資料や証言を交えながら紹介しており、度重なる震災からどのように復興の歩みを進めてきたのかを知ることができます。今回紹介したルートと併せて、ぜひお立ち寄りください。



編集後記：地震や津波だけでなく《自然災害》には、さまざまな種類があります。地球温暖化も伴ってか、今までに経験したことのない現象も起こっている現代。「被災」がその人の経験になり、この先も地球の活動によって起こり得る《自然災害》に対して、自分たちと同じ想いをしない・させないように様々な方法で『伝える』ことをしています。きっとそれは、先人たちも同じであったと思います。その時代で、考え得るあらゆる手段で後世に『伝える』ために、石に刻み、画を描き、文字に残す。そして言い伝える。今の時代は膨大な数の動画もありますが、直接「見聞きする体験」が何よりも勝ると思うのです。～と～

三陸ジオパーク推進協議会

〒027-0072

岩手県宮古市五月町1-20

(宮古地区合同庁舎2階)

TEL:0193-64-1230

FAX:0193-64-1234

info@sanriku-geo.com

<https://sanriku-geo.com/>

Facebookはこちら

